

観血的処置時に休薬を要する薬剤の中止期間

神戸医療センター医療安全管理委員会（2017.11.1 改訂版）

当院では観血的処置による出血及び血栓のリスクを軽減させるため該当薬剤の休薬期間を基本的に表1、表2の通りに定めています。患者さんの状況により抗血栓薬休薬による血栓塞栓症リスクがあることも考えられるため、処方医と処置医が密接な打ち合わせを行うことは必須であると考えます。血栓、塞栓症のハイリスク患者さんへは置換療法などをご考慮ください。

診療科により一部薬剤については休薬期間の考え方が異なるために、処方医は各診療科にお問い合わせをお願い申し上げます。消化器内視鏡の場合は別紙資料の中止期間に従い、眼科、循環器内科の処置についての休薬は行いません。

中止期間の定義として、手術・処置日を含まない、手術・処置日前日までの連続した日数を指します。

サプリメント等は原則として観血的処置を行う1週間前に中止します。

表1

薬効分類	一般名	代表商品名	術前 中止期間(日)	中和剤
高脂血症薬	ω3脂肪酸エチル	ロトリガ	7	—
閉塞性動脈硬化症薬	イコサペント酸エチル	エパデール	7	—
脳循環改善薬	イフェンプロジル	セロクラール	1	—
	ニセルゴリン	サアミオン	2	—
	イブジラスト	ケタス	3	—
冠拡張薬	ジピリダモール	ペルサンチン	1	—
	トラピジル	ロコルナール	2	—
	トリメタジジン	バスタレルF	1	—
	ジラセブ	コメリアン	1	—
血栓溶解剤	ウロキナーゼ	ウロナーゼ	1	—
血小板凝集抑制剤	アスピリン	バイアスピリン、パファリン、タケルダ	7	—
	チクロピジン	パナルジン	7	—
	クロピドグレル硫酸塩	プラビックス、コンプラビン	7	—
	プラスゲレル	エフィエント	7	—
	シロスタゾール	プレタール	2	—
	リマプロスト	オバルモン	1	—
	オザゲレルナトリウム	オキリコン	1	—
	サルボグレラート	アンプラーグ	1	—
	ベラプロストナトリウム	ベラサス、プロサイリン	1	—
TXA2阻害作用のある抗アレルギー薬	オザクレル塩酸塩水和物	ドメナン、ベガ	2	—
	ラマトロバン	バイナス	2	—
ヘパリン製剤	ヘパリン	ヘパリンナトリウム ヘパリンカルシウム	4時間前	硫酸プロタミン
抗トロンピン薬	アルガトロバン	ノバスタ	1	—
直接トロンピン阻害剤	ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩	ブラザキサ	2	イダルシズマブ
未分画ヘパリン	エノキサパリンナトリウム	クレキササン	12時間前	硫酸プロタミン
第Xa因子阻害剤 ^{*1}	エドキサバントシル	リクシアナ	1	—
	ダナパロイドナトリウム	オルガラン	1	—
	リバーロキサバン	イグザレルト	1	—
	アピキサバン	エリキューズ	2	—
	フォンダパリヌクスナトリウム	アリクストラ	36時間前	—
経口抗凝固剤	ワルファリンカリウム	ワーファリン	5	ビタミンK

*1 第Xa阻害薬の体内消失時間は腎機能に依存している。予定手術日に、それぞれの患者に合わせた中止期間の延長が推奨される。

表2

薬効分類	一般名	代表商品名	中止期間
低用量経口避妊薬(OC)	デソゲステル・エチニルエストラジオール	マーベロン21,28、 ファボワール21,28	手術前4週間、術後2週間
	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	オーソ777-21、 オーソM-21、 シンフェーズT28	
	レボノルゲステル・エチニルエストラジオール	トリキュラー21,28、 アンジュ21、28、 ラベルフィーユ	
骨粗しょう症治療剤 (SERM)	ラロキシフェン	エビスタ	術前3日、術後完全に歩行可能になるまで
	パゼドキシフェン	ビピアント	
抗がん剤(黄体ホルモン)	メドキシプロゲステロン	ヒスロンH、ヒスロン	手術前4週間、術後1週間
抗がん剤(卵胞ホルモン)	エチニルエストラジオール	プロセキソール	手術前4週間、術後2週間
その他の卵胞ホルモン製剤	結合型エストロゲン	プレマリン	手術前4週間、術後2週間
	注射エストラジオール	オハホルモンデポー筋注、 プロキノンデポー筋注	
	経口エストラジオール	ジュリナ	
	経皮吸収エストラジオール	エストラーナテープ、 ディビゲル	
	注射エストリオール	エストリールデポー注、 ホーリン筋注	
	経口エストリオール	エストリール、ホーリン	
月経困難症治療剤(黄体・卵胞ホルモン混合製剤)	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	ルナベル配合LD,ULD	手術前4週間、術後2週間
	ドロスピレノン・エチニルエストラジオール	ヤーズ配合	
その他の黄体・卵胞ホルモン混合製剤	ノルエチステロン・メストラノール	ソフィアA配合	手術前4週間、術後2週間
	ノルゲステル・エチニルエストラジオール	プラノバル配合	
	クロルマジノン・メストラノール	ルテジオン配合	
	エストラジオール・酢酸ノルエチステロン	メノエイドコンピパッチ	

参考文献

- ・添付文書、インタビューフォーム、製薬会社独自データ
- ・手術医療の実践ガイドライン2013(日本手術医学会)
- ・Regional Anesthesia and Pain Medicine Vol40,Number3,May-June2015
- ・米国局所麻酔学会(ARSA)2010 3rd Edition
- ・抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン2012(日本消化器内視鏡学会)
- ・心房細動治療(薬物)ガイドライン2013(日本循環器学会協賛)
エビデンスレベルC(ランダム化比較試験なく専門医の意見一致したもの)
- ・科学的根拠に基づく抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン2010
(日本有病者歯科医療学会協賛)
- ・抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン2006版に準じて作成されたガイドラインとして以下
循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン2009、

上部・下部消化管内視鏡処置時に休薬を要する薬剤の中止期間

神戸医療センター 消化器内科 (2017.11.1)

抗血栓薬(抗血小板薬、抗凝固薬)を服用されている患者さんの上部・下部消化管内視鏡検査(胃カメラ、大腸カメラ)およびその処置時における休薬期間を原則以下のようにします。しかし患者さんの状態により抗血栓薬休薬による血栓塞栓症のリスクがあることも考えられるため、処方医と処置医が密接な打ち合わせを行うことは必須です。

通常の上部・下部消化管内視鏡検査および内視鏡的粘膜生検時の抗血栓薬の内服中止の必要はありません。ただしワルファリンカリウムにおいてはPT-INRが治療域にあることを確認してください。

ポリープ切除術、粘膜切除術、粘膜下層剥離術、内視鏡的乳頭括約筋切開術、内視鏡的十二指腸乳頭切除術、超音波内視鏡下穿刺吸引術、経皮内視鏡的胃瘻造設術、内視鏡的食道・胃静脈瘤治療、内視鏡的消化管拡張術、内視鏡的粘膜焼灼術等の出血高危険度の消化管内視鏡処置については以下の表1の休薬期間に原則従ってください。

表1

薬効分類	一般名	代表商品名	中止期間(日)	中和剤
高脂血症薬	ω3脂肪酸エチル	ロトリガ	1	—
閉塞性動脈硬化症薬	イコサペント酸エチル	エパデール	1	—
脳循環改善薬	イフェンプロジル	セロクラール	1	—
	ニセルゴリン	サアミオン	1	—
	イブジラスト	ケタス	1	—
冠拡張薬	ジピリダモール	ベルサンチン	1	—
	トラピジル	ロコルナール	1	—
	トリメタジジン	バスタレルフ	1	—
	ジラセブ	コメリアン	1	—
血栓溶解剤	ウロキナーゼ	ウロナーゼ	1	—
血小板凝集抑制剤	アスピリン	バイアスピリン、パファリン、タケルダ	—	—
	チクロピジン	パナルジン	7	—
	クロピドグレル硫酸塩	プラビックス、コンプラビン	7	—
	プラスゲレル	エフィエント	7	—
	シロスタゾール	プレタール	1	—
	リマプロスト	オパルモン	1	—
	オザグレルナトリウム	オキリコン	1	—
	サルボグレラート	アンブラーグ	1	—
	ベラプロストナトリウム	ベラサス	1	—
TXA2阻害作用のある抗アレルギー薬	オザグレル塩酸塩水和物	ドメナン、ベガ	1	—
	ラマトロバン	バイナス	1	—
ヘパリン製剤	ヘパリン	ヘパリンナトリウム・カルシウム	4時間前	硫酸プロタミン
抗トロンピン薬	アルガトロバン	ノバスタン	1	—
直接トロンピン阻害剤	ダビガトランエテキシラートメタンサルホン酸塩	ブラザキサ	1	イダルシズマブ
未分画ヘパリン	エノキサパリンナトリウム	クレキサソ	12時間前	硫酸プロタミン
第Xa因子阻害剤 ^{*1}	エドキサバントシル	リクシアナ	1	—
	ダナパロイドナトリウム	オルガラン	1	—
	リバーロキサバン	イグザレルト	1	—
	アピキサバン	エリキューズ	1	—
	フォンダパリヌクスナトリウム	アリクストラ	1	—
経口抗凝固剤	ワルファリンカリウム	ワーファリン	3~5	ビタミンK

参考文献: 抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン2012(日本消化器内視鏡学会)